

BUNGEISHUNJU OVERSEA SUPPLEMENT  
**Japan To-day**  
Edited by Ken Kikuchi

OUR POLITICAL PHILOSOPHY  
BY KEIKICHI FUKUDA

It is a pleasure to have the opportunity of expressing the views of the Japanese people on the political philosophy of the Japanese people. The Japanese people have a long history of political philosophy, and it is our duty to express our views on the political philosophy of the Japanese people. The Japanese people have a long history of political philosophy, and it is our duty to express our views on the political philosophy of the Japanese people. The Japanese people have a long history of political philosophy, and it is our duty to express our views on the political philosophy of the Japanese people.



批判」を巻頭に置き、近衛の随想「学生時代の思い出の数々」、菊池の「日本とアメリカ」などを英文、仏文などで掲載する。全体的に日本文化の国際性を強調する内容だが、9月号巻頭では、哲

戦時中、雑誌「文芸春秋」が国際社会に日本をアピールするために出した欧文タブロイド「Japan To-day」の全号を、鈴木貞美・国際日本文化研究センター教授が確認した。戦意高揚に寄与したとの評価がある同誌だが、このタブロイドは創刊者・菊池寛の自由主義思想が色濃く反映された内容で、菊池の実像に迫る新資料という。

同誌1938年4、10月号の付録として発行された。国内ではこれまで4月号と6月号しか残っていなかったが、今年、米ハーバード大などに保管されていることが分かった。

毎号8ページ。作家の島崎藤村や評論家の長谷川如是閑ら文化人のほか、当時の近衛文麿首相、後に首相となる芦田均らそうそうたる面々が名を連ねる。本誌に載せた随想や評論の翻訳のほか、初出とみられる文章もある。

5月号には、近衛のブレインだった政治学者・蠟山政道の論文「日本と日本への海外

にも  
翻刻  
来春  
全号

# 文芸春秋 戦時下の欧文タブロイド

学者の三木清が「われわれの政治哲学」(英文)と題してアジア主義を提唱し写真、同センター提供。日中提携の必要性や日本軍による中国大陸の平和回復のアピールを随所に盛り込む。

「文芸春秋」3月号で、菊池は「国家の非常時に当って雑誌社は雑誌社なり、国家の目的に協同した方が、いいと思つて始める」「世界の新聞社及び著名な政治家文筆家に、発送したい」と創刊を予告している。

鈴木教授は「37年に日中戦争が開戦し、急速に右傾化したとされる菊池だが、タブロイドからは彼なりの自由主義思想が伝わる。戦争が泥沼化する中、対外的な宣伝で国際世論を引き寄せ、一方で国内の軍国主義者をけん制する」という複雑なパフォーマンスだったのだろう」と解説する。

近現代史やメディア史の研究者18人が項目ごとに翻訳、解題を進めており、来春にも翻刻版が出る。

(西田朋子)